

17 命のビザ・杉原千畝夫妻顕彰会

「命のビザ」杉原千畝夫妻顕彰活動

- ・希望の集い(英文説明板除幕式・奉納演奏)
- ・講演会

計画達成度
70%

団体データー
命のビザ・杉原千畝夫妻顕彰会
代表者:松下洋一郎
構成人数15名
活動歴3年
HP:なし
Mail:soyo@beige.plala.or.jp

事業目的 国際感覚を養い、世代間交流をはかりたい

1940年7月、第2次世界大戦の前夜、ナチスドイツの迫害から逃れて来たポーランドやベラルーシの多くのユダヤ人難民が日本の「通過ビザ」を求めて、リトアニアのカウナスにあった日本領事館に集まった。対応したのが副領事の杉原千畝で、ビザ発給について本国の外務省に打診すると、返信は否定的なものだった。千畝は葛藤の末、「人命第一」とする人道の精神により職を賭してビザ発給することを決断した。この決断を支えたのが幸子夫人だった。当時、二人の間には小さな男の子3人がいた。2000余り発給されたビザにより救われた命は6000名にもおよび、後に「命のビザ」と言われるようになった。

今日でも民族迫害は世界各地で続いている。島国の日本でも政治的難民の扱いについて問題になっている。2022年2月にはロシア軍によるウクライナ進攻が始まった、ますます発揮した「人道の精神」が世界に尊敬される日本人になるためにも大切になっている。お二人の偉業を伝えて学び、幸子夫人の誕生地である沼津の誇りとしたい。

現状と目標 杉原千畝の妻、幸子夫人が沼津出身ということを知らない

一般市民はもちろんマスコミ関係者でさえ「幸子夫人の誕生地が沼津であったことは初めて知った」という声があった。新聞や『広報ぬまづ』1月15日号で紹介されたが、お寺を訪れる人々、高校生、大学生に聞いてみると、「命のビザ」や幸子夫人の誕生地ことを聞いてみると認識されていないことが分かる。まだまだ一般市民、次代を担う世代に歴史的偉業が浸透していないというのが現状であり、顕彰活動を継続し発信し続けていくことが必要だと思う。



活動と成果 英文説明板除幕式・奉納演奏、講演会

- 11月14日(日)命のビザ 希望の集い 会場:港口公園(杉原千畝夫妻顕彰碑前)
英文説明板除幕、献花(池坊正流 土井翠亮)、献茶(表千家流 森田宗雅)、奉納演奏(山田流箏曲「松の羽衣」)箏・渡辺富鳳 三弦・渡辺鳳賀代 鼓・堅田喜代 和の文化でまとめた。

イスラエル、リトアニア両国駐在大使館と当顕彰会三者の協力のもと、英文説明板を設置しました。この共同プロジェクトにより領国との友好が深まり、新たに駐日ポーランド大使館の外交官も出席されました。

英語説明板の新設を通して、杉原夫妻の人道の精神を世代間を通して「勝縁を結ぶ」ことが出来ました。奉納演奏で、和の文化を演出することで、イスラエル、リトアニア、ポーランドと友好を深めることが出来ました。

- 11月27日(土)命のビザ 講演会 会場:沼津市民文化センター(小ホール)
会費/500円(高校生以下無料)、参加者/250名
1. 川村秀氏による「モスクワでの杉原千畝さん」
2. 北出明氏による「命のビザを繋いだ人々」



振り返り課題 人道の精神を受け継ぎ、世代を越えた交流をはかる

- 沼津市、NPO法人杉原千畝命のビザ、関係大使館との連携のもと、千畝の誕生地とされる八百津町(岐阜県)、千畝の学びの地、名古屋市とも提携し、点から線へと展開し、「人道の道」ルートの実現をめざしたい。また、新型コロナ収束後には、「杉原サバイバー」の子孫をはじめ海外からの観光のスポットとなることを目指したい。
- 今回希望の集いの会場で「命のビザ」を模した「命のピザ」を販売したところ完売となったことから、今後はキッチンカーなどを入れてフェスティバルの雰囲気を演出し、子育て世代や若年層にも参加してもらい世代間交流を図れるイベントに発展させたい。
- 杉原夫妻の人道の精神をたて系にして、ポーランド在住の坂本龍太郎さんを通じて、ウクライナ難民、とくに子どもたちの教育支援の募金活動に取り組んでいる。NVN(日本沼津災害救援ボランティアの会)沼津国際交流協会の皆さんとも連携して今後とも活動していきたい。

